



ロシア進出企業の皆さんと意見交換

下の人気は絶大です。中間マージンも高い市場なので、一度軌道に乗るとうまみのある商売ができるとのことで、ロシア市場の魅力を強く訴えておられました。

数時間の自由時間があつたので、中央軍事博物館を見学しました。展示のほとんどは、ヨーロッパの戦闘に関するものです。モスクワをはじめ、ロシアの西部から見た極東のイメージは、こういう程度なのかもしれません。若干、日本との戦闘についても展示がありました。第2次大戦で解放した地域の地図がありました。主にナチスドイツから解放した地域ですが、北方領土も地図に明示されています。北方領土は戦後60年以上もロシアの実効支配が行われています。北方領土返還の難しさを改めて感じました。

「近くて遠い隣国」ロシア。領土問題や経済などで関係も深いのに、今一つイメージがもちづらい国です。帝政ロシア以来の蓄積がある大国であり、また、第2次対戦末期、中立条約を破つての旧満州侵攻や商取引での難しさにも見られるように、どこに落とし穴があるかわからない国でもあります。改めて付き合いの難しさを感じた、初めての訪問となりました。ぜひ皆様にも訪問されることをお勧めします。



ロシアから見た北方領土地図

～高齢化時代と付き合うために～ 長寿社会の生き方にあつた制度を!(後編)

人生80年の時代。60歳で定年を迎えても、元気に活躍できる方がほとんどです。だからといって、「働く」ということは必ずしも会社に勤務するということでは



医療・介護の現場では多くの人手が必要です。

く、地元で子どもたちやご高齢の方のために活動する、というのも一つの形です。もう子育ても終わっているでしょうから、賃金は会社勤めの時よりも低くて良いのではないのでしょうか。「誰かの役に立ちたい」というのは、おそらく私たちの多くがもっている価値観です。こうした日本人の価値観に基づいて、制度設計、運用をすれば、国の財政支出を抑えることができます。介護保険の大部分は最終的に介護職員さんなどの人件費です。医療保険も、そうです。医師、看護師、ヘルパー、事務職員など人件費のたまりです。専門性の高い分野もあれば、見守りや話し相手、清掃など、資格がなくてもできる仕事内容もあります。専門性が高くない仕事に対しては、最低賃金に満たないまでも、何らかの対価が発生するような働き方を認めることが考えられます。医療や介護の分野でボランティア活動に近い形で働いてくださる方を増やすことができれば、それだけ人件費を圧縮することができます。

介護保険制度が変わり、比較的程度の軽い「要支援」の方向へのサービスが市町村に移管され、ボランティアを基本とした制度になる、という報道がなされています。今まで述べたことを考えれば、当然のことと思います。今後問題となるのは、労働基準法です。対価を支払うとだちに最低賃金の制約に縛られてしまうのでは、ボランティアを基本とした介護制度はもちません。人生の段階や、仕事の内容によって、多様な働き方、賃金のあり方を認める労働基準法の改正が求められます。

人間が長く生きるという欲求を満たしている現代の日本。そのかつての理想を、より良い形で実現していくのが、今を生きる私たちの責務であると考えています。

INFORMATION

■明るい日本を創る座談会

熊谷市久保島地区

7月31日(木) 19:00～

久保島第一自治会館にて

熊谷市久保島、清水建設工業(株)様向かい

→詳細は事務所までご一報ください。

■街頭演説

7月27日(日)

16:00～八木橋東口前

16:20～熊谷駅北口

16:45～埼玉りそな銀行行田支店前

17:20～羽生市中央三丁目交差点

17:50～加須市役所入口交差点

→日時は都合により変更する場合があります。

活動報告



街頭にて



各地にて(熊谷→行田→羽生→加須)

座談会



熊谷市久保島地区久保島第一自治会館にて 6/27